

# 誤解だらけの「女性活躍」

東洋経済新報社編集局「週刊東洋経済」編集部記者

印南志帆



- \*一馬力ではやっていけない実情
- \*昇進は係長まで？
- \*女性のキャリアに「3つの壁」
- \*女性役員は「社外取」で賄う
- \*男女共にある「女性活躍」への嫌悪感
- \*同意のない過剰な気遣い
- \*「女性活躍」は利益につながる
- \*女性が働くと少子化？
- \*二社の「スゴい女性活躍」施策
- \*イクメン過労の理由

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は週刊東洋経済編集部の記者をしています。印南志帆さんに来ていただきました。

これまで東洋経済編集局の報道部記者に3人講演していただきました。報道部記者は主としていろんな業界を取材するのが仕事ですけれども、印南さんのような週刊東洋経済編集部記者兼編集者は、特に週刊誌の大きな特集を企画し、一つの作品としてまとめます。ですから、特集になりますと、自分で取材したり、インタビューしたりしますが、一方で、他の人の記事を編集して一つのパッケージにするという統括的な仕事をしています。

実は会員さんから、ここで何回か東洋経済の記者の話聞いたけれども、東洋経済は男しか

いないのかと聞かれて、いやいや女性もたくさんおりますということで、今日は女性の記者である印南さんに来ていただいたわけです。

実はさうとう昔の話になって恐縮ですけども、45年前に私がこの会社に入ったときに、編集部は男性しかおりませんでした。女性の記者はゼロ、編集者もゼロ。先輩からこの編集局に入つての何か感想を社内報に書きなさいと言われたので、私は相撲部屋に入ったような感じがするというエッセーを書いた記憶がございます。その後、数年経ちまして、男ばかりのところから女性の記者が2名初めて入りました。そのときに私の先輩方がすぐ頭を悩ませて、新しい女性の記者が入つたので、昼ご飯でもごちそうする必要がありますのではないかとみんなで相談して